

Ikiiki
MaebaShi
Jin



落語で地域を守る元警察官
大和 英雄さん・72歳
樋越町

落語で地域の安全を守りたい

高齢者の交通安全や防犯の啓発などのため、落語を交えて講話を行っている。

また、最近の犯罪情報などは、根多帳と呼ぶ手帳に書きとめ、活用している。

元警察官の大和さんは、子どものころから落語に親しみ、近所の人が落語のレコードをかける、よく聴きに行っていたという。在職中、交通安全講話を行うときに落語を取り入れ、それ以来、落語調の講話をしている。

「今は、警棒を扇子に持ち替えました」

退職後も、地域の安全のために、落語で講話を続けてきた。分かりやすく伝えることはもちろん、その場の雰囲気や反応を見ながら、小話を入れて、聞き手を飽きさせないように工夫しているという。

「自分のことは自分が守るという気持ちが大切です。自分は絶対大丈夫だと思ってる人でも、いざとなると交通事故や詐欺事件の被害者になってしまうことがあります」

交通安全の防止や犯罪に巻き込まれないためにも、講話で聞いたことを役立ててほしいという。

「二人一人が安心して生活できる社会が実現できるといいですね」と語る。

今も活動を続けている大和さん。扇子を手に独自のセンスで地域の安全を守る姿を応援していきたい。



涼しい湖畔で夏祭り

8月2日、赤城大沼湖畔で赤城山夏まつりを開催しました。赤城神社での神事やツリーイング体験、手こぎボート大会、ミニライブ、灯籠流しなどイベントが盛りだくさん。フィナーレには花火が湖畔を美しく彩り、訪れた人は暑さを忘れ、祭りを楽しんでいました。



トップアスリートが直接指導

7月28日、市民体育館で「トップアスリートによる体操教室」を開催しました。市内の小中学生約150人が参加。講師として招かれた日本体育大助教・田中理恵さんとPOSSIB・坂本功貴さんと一緒に体を動かしながら、体操の基礎を学びました。

日本の未来を担う選手が熱戦

7月25日から30日まで、前橋総合運動公園などを会場に、「adidas CUP 2014日本クラブユースサッカー選手権大会」の準々決勝までの試合を開催。日本サッカー界の将来を担う18歳以下の選手が、夏の暑さに負けず、創造性あふれるプレーで観客を魅了しました。



この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第4回はアーツ前橋のサポーター・松村吉久さんです。

よみがえる子どもと高揚感

松村 吉久さん・58歳



現在、アーツ前橋では、「プレイヤーズ 遊びからはじまるアーツ展」を開催中。この展覧会を見て、かつてプラモデル少年であったころの高揚感が思い出

されました。小学生時代、お年玉や少ない小遣いをコツコツ貯め、飛行機や戦車などのプラモデルを作ることに夢中でした。模型はもちろんですが、それが入っていた箱の絵が子ども心にもあまりリアルでカッコよく、箱を捨てられずに、仕方なく絵だけを切り取って大量に集めていた記憶があります。これが高荷義之さんのイラストでした。とにかく当時、模型屋に行ったら何をかうか迷いに迷い、大事に家に持って帰って、いよいよ箱を開け、そして毎日少しずつ組み立てる、その全てにワクワクドキドキ。あの気持ちを思い出しました。この展覧会が始まる前の6月、参加作家のKOSUGEI 16の制作補助をサポーターとして手伝った時にふと感じた「既視感」みたいな気持ちはこれなのだと思えます。

多くの人が大人になっていく過程で、大事なモノを置き去りにしていくのかもしれない。しかし、この子どもの時のワクワクした気持ちを今も変わらず持ち続けているのが、今回参加している作家たちなのでしょう。これは一見の価値がありますよ。

問い合わせは
アーツ前橋 ☎027-230-1144